

令和元年度 第2回倉敷科学センター協議会 議事録

【日 時】令和2年3月10日（火）18：00～21：30

【会 場】科学センター研修室及びプラネタリウム

【出席委員】井出委員，富岡委員，山田委員，箕口委員，中原委員，高木委員，河野委員

【事務局】三宅部長，浅沼次長，三谷参事，藤田館長，角南課長主幹，河村主幹，
三島主幹，石井主任

【傍聴者】1名

1 開会

(1) 挨拶

【事務局】ただいまから，令和元年度第2回倉敷科学センター協議会を開催いたします。

私は，倉敷科学センター館長の藤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず会議の成立についてですが，倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により，委員の半数以上の出席をもって成立いたします。今日現在，委員は10名で構成されておりまして，半数は5名以上の出席となります。ただいま6名出席（※山田委員が事業報告の途中から出席したため，最終的に7名出席）されていますので，会議は成立しております。

なお会議は原則公開ということで，本日は傍聴者が1名いらっしゃいます。

それでは，お手元にお配りしております協議会要項に従って進めて参ります。まず，会議に先立ち，教育委員会を代表いたしまして，生涯学習部長の三宅が御挨拶申し上げます。

【部 長】第2回の倉敷科学センター協議会を開催させていただきます。本日はこのように感染症対策を講じての開催となります。できるだけ手短に，とはいえ，科学センターの運営には大事な夏の全天周映画上映作品，夏休み企画展を御協議いただきますので，中身の濃い議論をいただけますようよろしくお願いいたします。

(2) 委員紹介（名簿順に自己紹介）

(3) 事務局紹介（自己紹介）

2 諮問

【事務局】本日御協議いただく事業計画について，次の2点について諮問させていただきます。
よろしくお願いいたします。

(1) 令和2年7月期全天周映画上映作品の選定について

(2) 令和2年度夏休み企画展の選定について

（藤田館長から富岡会長へ諮問書を渡す）

3 報告・協議事項

【事務局】ここから議事進行を富岡会長さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(ここから富岡会長が議事を進行)

【会 長】はい。それでは続けて議事の方を始めさせていただきたいと思います。

諮問の件は今、御説明いただきましたので、後ほど協議・報告事項3-(2)及び3-(3)のところで行いたいと思います。

(1) 議事録署名人の選任

【会 長】3番の協議・報告事項というところで議事を進めます。まず、(1)議事録署名人の選任ですが、2名の方を決めたいと思います。いかがでしょうか。

【特に意見なし】

【会 長】自薦がないようでしたら、私の方で指名させていただいてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、中原委員さんと高木委員さんをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、お二方、中原委員さんと高木委員さん、よろしくお願いいたします。

(2) 【協議2】「令和2年度夏休み企画展の選定について」(※予定の順番を変更)

【会 長】次に「協議1」の「令和2年7月期全天周映画上映作品の選定について」ですが、ここに入ると試写を見ることになるので、遅れて見えられる委員さんのためにも、先に「協議2」の「令和2年度夏休み企画展の選定について」を進めたいと思います。

それではまず、事務局からの説明をお願いします。

【事務局】「令和2年度夏休み企画展の選定について」御説明いたします。資料とレジメを参考に、選考をお願いいたします。

この夏の企画展については、今年の夏休みの7月18日から8月30日までの期間を予定しております。

選定の候補としては、いくつかの企画会社の提案や、今まで科学センターで実施した企画

展の実施状況、また近隣施設での実施状況等を参考にしながら、事務局側で事前に二つの候補に絞らせていただきました。それぞれ仮のタイトルが『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～(仮称)と『『みらいのデジタル科学館』～デジタルワールドで楽しく学ぼう～(仮称)』となっています。

まず、「科学ニンジャ学校」について説明します。

巧みに動き、いろいろな技や術を持っている忍者は、子どもたちにとって、強くてカッコいい憧れの存在です。「科学ニンジャ学校」は、忍者のこゝについて遊びながら楽しく学べるコーナーを設置します。

「水蜘蛛体験」では、沼地や湿地のような歩きにくい場所を歩くための水蜘蛛のモデルを使った歩行体験ができます。

「忍者コレクション展示」では、「しころ」や「望遠鏡」など実際に使っていた道具を展示します。

「七方出(しちほうで)で逃げ切ろう!」では、虚無僧や山伏、商人などに姿を変える忍法「七方出」を、最新のデジタル技術を使って疑似体験できます。

「忍者クイズ」では、現代のスパイになぞらえて仲間に確実に情報を伝えるための「暗号文字」についてクイズ形式で学べます。

「薬草?毒草?」では、聞いたことはある植物の効能や危険性について、実物標本をもとに楽しみながら学べます。

次に、「みらいのデジタル科学館」について説明します。

生活の中に幅広く活用されるようになったデジタル技術は、テレビやゲーム・通信機器など、私たちの生活の中でとても身近なものとなっています。「みらいのデジタル科学館」では、体を使って遊びながらいろいろなデジタル技術を体験できるコーナーを設置します。

「昆虫探索大冒険」では、光センサーを使って、画面の中の昆虫を集める体験ができます。

「宇宙旅行」では、マットに取り付けられた振動センサーを使って、自分が飛び跳ねることでロケットを宇宙に打ち上げる体験ができます。

「超速ランナー」では、いろいろな乗り物のスピードを自分の足踏みのスピードと競争しながら、その速さの差を実感できます。

「爆走5Gスーパー体験」では、5Gの加速度を体験できます。体を使ってアクティブにデジタルコンテンツを楽しめる企画展となっています。

夏休みは、来場者が一番多い期間で、特に家族連れで来られる方々が多いので、年齢を問わず楽しめるものを希望していますが、今回の2候補はいずれも条件を満たす良い企画だと思います。その中で、より一層、科学センターへ来るきっかけとなるような企画を選んでいただければと思っています。よろしく願いいたします。

【会長】 それでは、令和2年度夏休み企画展の選定について、協議をします。どなたか御質問や御意見があれば、お願いいたします。

【会長】 御質問がないようでしたら、私から一つ伺いますが、新型コロナウイルスの関係で、今後子どもたちの夏休みの期間が変更になる場合があると思われませんが、企画展については、時期を変更することがあるのでしょうか。

【事務局】 今のところ予定どおり(※7月18日～8月30日)ですが、今後の情勢次第で臨機応変に対応することになります。

【会 長】ありがとうございます。他に委員のみなさんから御意見・御質問があればお願いします。

【会 長】なかなか出ないようですので、もう一つ私から質問です。

大学でも新型コロナウイルスの予防に対してさまざまな配慮をしていこうとしているところで、夏休みの時期になると、今とは状況が変わっているかも知れないんですが、もし予防対策が必要だったとして、それぞれの催し物で、配慮すべきことは想定していますか。また、これは誘導になるかも知れませんが、どちらの催し物が、より一層配慮が必要になるとか、そういったことは考えていますか。

【事務局】展示物を直接触れることがあります、その都度消毒することになるかと思えます。展示内容で言えば、「みらいのデジタル科学館」の方が、スイッチ類を触ることが多いかも知れません。

【会 長】ありがとうございます。他に、御意見、いかがでしょうか。

【副会長】私事ですが、実家が滋賀の甲賀郡なので、忍者がテーマの企画展がいいなあと思いました。デジタル科学館は、他でも見るができると思うんですが、忍者のことはなかなか触れる機会が少ないと思うので、忍者がいいかなと思いました。

【会 長】ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。

【会 長】出ないようですので、立て続けで恐縮ですが、例えば忍者の方は、歴史的なことも扱うことになると漢字も多く使う一方で、内容は子どもたちが楽しめるよう簡単になっているようにも思われます。ターゲットとなる年齢層については、どのように考えられますか。

【事務局】忍者展は、学びの部分で読んで勉強する内容もあり、この辺は小学生でも高学年向きかも知れませんが、水蜘蛛体験や七方出は体を動かして楽しく体験する内容なので、幼稚園・保育園から小学生、大人の方まで楽しめる内容だと思います。

一方のデジタル科学館は、家庭用のゲーム機で体験するようなビデオゲームを、もっと大掛かりな形で体験できるもので、大人の方は、子どもたちの見守りとなるかも知れませんが、こちらも小さな子どもから小学生を中心に楽しめる内容だと思います。

【会 長】はい、ありがとうございます。他に御意見、いかがでしょうか。

【委 員】大人でも子どもでも楽しめるのは、忍者かなあと思います。

デジタル科学館は、いろんなところでされているので、あまり目新しさを感じません。

東京では、忍者のお店などもあり、手裏剣などを趣味で集める大人もいるので、いろんな年齢層が楽しめるように思います。

【会 長】はい、ありがとうございます。

そうしましたら、意見もいろいろ出たようですので、そろそろ「令和2年度夏休み企画展」について意見をまとめたいと思いますが、他に御意見等ないようでしたら、挙手で決めさせていただきますよ。よろしいですか。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、まず「『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～(仮称)」を推薦される方、挙手をお願いします。

(5名挙手)

【会 長】ありがとうございます。

それでは5人全員賛成ですので、「令和2年度夏休み企画展」については、『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～(仮称)」と結論付けたいと思います。

【委 員】すみません、一つだけ質問してもよろしいですか。図面を見ると、ニンジャ学校の方は、高い壁や扉で区切られていて、少し閉鎖的な空間になっているように見受けられます。夏休みのころに新型コロナウイルスが下火になっていけばいいのですが、そうでなければ密集となる恐れがあって、その点だけ気がかりです。いかがですか。

【事務局】貴重な御指摘、ありがとうございます。図面では閉鎖的なイメージになっていますが、例えば扉は開放したりして、換気を優先した会場作りを心掛けたいと思っていますので、よろしく御理解願います。

【会 長】それでは、今の御意見も踏まえた運営をお願いして、『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～(仮称)」を協議会の推薦とします。

(3)【報告1】「令和元年度事業報告について」(※予定の順番を変更)

【会 長】それでは、続いてですが、全天周映画の協議を残して、先に「報告1」の「令和元年度事業報告について」をお願いしてよろしいか。事務局からの説明をお願いします。

【事務局】まず、「資料1-1」から説明いたします。

年度1ヶ月残しての情報ですが、科学展示室とプラネタリウム(宇宙劇場)の年間来館者数の統計です。

プラネタリウムは、前年度末の平成31年3月27日にリニューアルオープンして以降、大変多くの方が観覧されましたが、リニューアルに当たって、大人の方もゆったりと鑑賞できるように座席のサイズや足回りなどに余裕を持たせた改修を行った結果、座席数が210席から165席に減った関係で、繁忙期には満席になりやすくなりました。そのため、8月などは、収容できる人数の頭打ちとなるレベルの集客日が続き、年間通して見ると、リニューアル前に比べて著しく増加とはいきませんでした。今後は5月の連休中や8月のお盆の週など、特に集客が見込まれる期間に、可能であれば臨時投映枠を設けるなどして、受け入れできる観覧者数を増やせないか、対策を検討しているところです。

科学展示室については、前年度後半にプラネタリウムが改修工事に入って休演した影響で、来館者数が若干減っていましたが、プラネタリウムの再開とともに、来館者数も戻ってきているようです。

「資料1-2」は、2月末までの月別入館者数、団体・個人の利用者内訳、小学校団体の地域別内訳と学校園の内訳を集計しています。「項番4」の小学校の内訳を見ていただきますと、市内小学校の利用人数がプラネタリウム休演前に比べて1千人ほどまだ少ないので、まだ戻って来ていない学校があるかな、と感じています。

「資料1-3」は展示室・プラネタリウム・講座の人数内訳、いきいきパスポートの利用者数などを挙げていますが、この中で「項番7」の真備天体観測施設(たけのこ天文台)についてなんですが、平成30年度の西日本豪雨災害以来、現在も休館中です。今後の見込み

として、来年度令和2年度中には、たけのこ天文台が入っている真備図書館の改修が終わって再開できると聞いていますので、科学センターとしてもその予定に沿って、天文台施設の保守点検を実施し、来年度中の再開に向けて準備を進めたいと考えています。

「資料2-1」を御覧ください。科学センターの事業は、プラネタリウムの「宇宙劇場運営事業」、科学展示室の「展示室運営事業」、「講座・イベント・普及事業」の3つの柱で展開しています。

「項番1」の事業費は、2月末時点の決算見込みです。

「項番2」の利用者数174,914人も2月末時点の集計です。

「項番3」の宇宙劇場運営事業について、まず、プラネタリウムの番組ですが、今年度はリニューアル直後で、学校園団体向けの学習投映については、2学期の9月以降、準備が整った番組から順次上演開始することとしました。御覧のとおり、幼児向け2番組、小学生向け1番組を、学校園団体の上演要望等を聞きながら上演しました。一般投映番組は、年3回、7月、11月、3月に新番組を上演開始するのですが、まずリニューアル記念番組として制作した「新しい宇宙」を年度初めから約1年間、科学センターの天文技師が制作した「史上初！ブラックホール直接観測」を7月の番組改編時から、同じく天文技師が制作した『はぶさ2』小惑星リュウグウへ」を11月の番組改編時からそれぞれ上演しています。

プラネタリウムは3月に特別投映も行っており、東日本大震災を経験した仙台市天文台制作の「星よりも、遠くへ」というドキュメンタリー番組を3月7日(土)、8日(日)に上演、そして明日、震災当日の11日(水)及び週末の14日(土)、15日(日)にも上演を予定しております。この番組は制作者の意図に賛同した全国複数のプラネタリウムで、無料で公開されています。

それからこのあと協議していただく全天周映画については、この協議会で御推薦いただいた番組の年間上映権を、年3回、7月、11月、3月の番組改編時に合わせて1番組ずつ契約し、御覧のような複数の番組を組み合わせながら上映スケジュールを組んでいます。

次に「資料2-2」の「項番4」、展示室運営事業ですが、先ほども御協議いただきましたように、前年度の協議会で御推薦いただいた夏休み企画展「鏡の魔法展」を7月20日から38日間、特別展示室で開催し、期間中2万7千人余りの入場者をお迎えしました。同じく特別展示室を会場とした無料開放の展示として、こども科学絵画作品展を12月下旬から15日間、これは小中学生を対象に宇宙をテーマにした絵画等を募集して、応募作品を掲示させていただきました。同じく特別展示室で、天体写真展、星景写真展をそれぞれ年度またぎで開催し、無料で御観覧いただきました。

「項番5」の講座・イベント・普及事業については、御覧のような内容で、年間100を超える回数の各種講座等を実施しました。特別企画はライフパーク全館を使用するような大規模なイベントで、10連休となったゴールデンウィークには毎日サイエンスショーを実施したりするなど、御覧のようなイベントを行いました。

「資料2-3」の公開教室については、参加費無料、参加自由で公開しているもので、毎月第2・第4土曜日に実施しているわくわく工作室・わくわく実験室は、主に就学前の幼児や小学校低学年向けです。天体観望会等も年間20回以上実施しています。移動プラネタリウムは、科学センターが閑散期の1月下旬の平日に、希望する小学校5校程度を毎年訪問して、モバイルプラネタリウムによる授業を行うものです。

「項番6」のたけのこ天文台の講座は、平成30年7月豪雨被災で休館中のため、すべて休止しました。

「項番7」の広告事業は、タウン情報岡山等に年間85万円ほどかけて広告を出しています。

「項番8」の委託事業については、御覧のとおりです。

【会長】 それでは、「令和元年度事業報告」について、何か御意見・御質問はございますか。

【委員】 事業に対して目標を定めていると思うんですが、目標に対してどうだったのか、お伺いします。また、移動プラネタリウムに5校行かれてるようですが、真備の学校には行かれていますでしょうか。

【事務局】 目標については、毎年18万人の利用者数を事業計画に挙げさせていただいています。今年度は、残り半月ですが、2月末時点で174,914人ということで、ほぼ達成できる見込みだったんですが、3月に入って新型コロナウイルスのために土日の集客が6~8割減っており、達成が厳しくなっています。ただ、17万を超える利用者数は、決して少ない訳ではなく、10年くらい前までは15~16万人くらいの利用者数で満足のできる運営状況でした。ところが、平成23年度に開催した「はやぶさ帰還カプセル巡回展」で対前年比5万人以上の利用者増があり、そのブームが続いた24年度まで著しく利用者数が多かったことから、それ以降は毎年18万人くらいの利用者があることを期待するような雰囲気が続いて、現在に至っているところです。

(山田委員が到着)

【事務局】 移動プラネタリウムについては、今年度も1日1校ずつ、5校訪問しており、倉敷西小学校、郷内小学校、上成小学校、真備地区では岡田小学校を訪問しています(※あと1校は児島小学校でした)。

【委員】 閑散期に、ということですが、5校までがいっぱいいっぱいでしょうか。

【事務局】 閑散期とはいえ、訪問するのに職員が3~5名必要なので、現状の5校程度で調整させていただいています。

【委員】 真備地区からだとなかなか科学センターまで来るのが大変かなと思います。(被災した児童の)心のことも心配なので、機会があれば、真備地区の子どもたちにも移動プラネタリウムの授業を実施できるよう御配慮いただけたらな、と思います。よろしくお願いします。

【事務局】 承知いたしました。

【会長】 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】 先ほどの説明で、市内小学校の利用が、まだ戻って来ていないというのが気になったんですが、どれくらい魅力を感じてもらえるか、ということなんだと思います。三菱自動車が2年間工場見学を停止していて、今年度から再開していますけれど、そちらは市内校の利用が戻って来ているようです。そこで市内63校のうち、どれくらいの学校が利用しているか、分かれば教えてください。

それから、科学センターは市の教育委員会が設置している施設なので、市内小学校で利用していない学校がある状況は良くない、ということが広まっていかないといけないと思います。例えば校長会へ行って、遠足ではぜひ科学センターに来てくださいと要請をするとか、

倉敷の小学校長会の場合、校長会長会というのがあって、そこだと比較的発言しやすいと思うので、各地区へ持ち帰って、極力無理のない範囲で科学センターを利用してもらえるよう、そういった話が校長会で広まっていくようにしたら良いのではないかと思います。

先ほど移動プラネタリウムの話もありましたが、そちらは真備とか児島・玉島の小規模校で、なかなかバスをチャーターして遠足に來れない学校へ優先的に行ってもらって、そうではない学校には、ぜひ直接科学センターでプラネタリウムを利用してもらえるよう、市教育委員会全体でも働きかけていただけたらな、と思います。

【事務局】直近の利用状況を正確に把握していないのですが、4年くらい前に一度しっかり調べたときには、科学展示室のみの利用も含めてであれば9割方の市内小学校の利用がありました。小規模校では2～3年ごとに利用されている学校もありましたが、全く利用されていない学校も数校あったように記憶しています。

その後、三菱自動車の見学休止と併せて、こちらにも来なくなった学校があるようですので、委員のおっしゃるとおり、私たちも校長会等にアピールしていかないといけないな、と感じているところです。

【委員】本来、プラネタリウムで学習投映を利用するべきだと思うのですが、実態として、科学展示室のみ利用する学校は、昼食場所を確保することが主目的になっているのではないかと思います。科学センターは、4年生の学習投映をきちんと見てもらうために利用するんだ、ということ私たち小学校教員も意識しないといけないと思いますし、科学センターもそういう方向に持って行っていただけたらな、と思います。

【委員】参加人数の内訳を見たときに、子どもたちが多いのは当然として、サイエンスショーやはやぶさの話題なども扱っているように、大人も見て「なるほどな」と思えるような、ある程度の専門性も期待されているような印象を持ちました。子どもの利用とのバランスもありますが、大人の利用にも応えられるようにしていただけたら、と思います。

【委員】京都市の青少年科学センターは、悉皆で必ず市内の小学校が利用するようにしています。そのために学校の教材に合わせたプログラムも毎年更新して準備しています。

それが将来的にリピーターとして帰ってくるということで、倉敷の科学センターも、小学生の時に倉敷の子どもたちが必ず1回は経験して大人になっていく、そして大人になって再び子どもたちを連れて科学センターに戻ってくるというようなサイクルが出来たらいいな、と思っています。

そのための先進事例を研究するとか、これから新課程で理科の授業も変わって来るので、その辺のホットな情報を取り入れて、特に思考力を伸ばすとか、科学を学びたいという意欲を高めるとか、そういった方向で活用ができたらいいな、ということ期待しています。

【会長】ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【会長】資料の表記で「西日本豪雨」は、気象庁の使っている表現では「平成30年7月豪雨」になっていますので、そちらに合わせた方が良くと思います。

仙台市天文台の番組の件は、私も倉敷市教育委員会関係で美術館・博物館の物資を陸前高田市などに届けさせていただいた経験があるんですが、倉敷も真備を中心に災害に遭ったりした経験を持ち、そういった被災地同士で、何か協力し合っていく取組はいいな、と思いました。

他に何かありますか。

【委員】大学生は SNS などを利用して情報を得ることが日常的になっていますが、科学センターは SNS などを使って情報発信されていますか。

【事務局】講座やイベントの募集情報などを、ツイッターでお知らせしています。

【委員】今、小学生が学校に来れなくて、ネット上でいろいろ情報を得たりしているようですが、科学センターでも、オンライン授業のようなものが提供できれば、より身近に感じてもらえるのかな、と思います。

【会長】小学生がユーチューバーに憧れる、というような話題もあって、世代的にもう SNS を使うのが当たり前になっているところがあります。ユーチューブや SNS を取っ掛かりとして、リアルな科学に親しんでもらうよう引き込むことも切り口としてあるな、と思います。

今は突然学校の授業が止まってしまって、小学生も中学生も戸惑っているでしょうし、そういう時に、SNS を通じて科学に興味を持てるような情報を得られれば、急な休校措置にもなっていくのではないかと思います。

【会長】他に御意見・御質問がないようでしたら、事業報告については、今の意見等を御参考にしていただいて、承認ということで終わらせていただきたいと思います。

【全員異議なし】

(4) 【報告 2】「令和 2 年度事業計画について」(※予定の順番を変更)

【会長】それでは、次に「令和 2 年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】資料 3-1, 3-2 を御覧ください。

予算については、議決前ですので、見込み額ということで挙げています。

利用人数については、先ほど「目標」ということで触れましたが、18 万人の利用を見込んでいます。

事業内容については、プラネタリウムは、今年度同様、7 月、11 月、3 月に新番組を上演する予定であります。全天周映画については、このあと御協議いただく作品を 7 月 7 日から、また次回 8 月の協議会で御協議いただく作品を 11 月からと 3 月から、それぞれ上映する予定です。夏休み企画展は、先ほど御協議いただいた「『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～(仮称)」を実施する予定で、入場者を 3 万人と見込んでいます。そのほかの事業についても、今年度並みに実施する予定で計画をしています。

それから真備天体観測施設についても、先ほど申しましたが、来年度中に復旧のめどが立ち次第、講座も含めて再開をしたいと考えております。以上です。

【会長】ありがとうございます。

それでは、令和 2 年度の事業計画について、御意見・御質問はありますか。

【委員】先ほど夏休み企画展が「『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～(仮称)」に決まりましたが、児童館でも忍者ごっこで遊んだりしていますし、小さい子どもにも大変人気のあるテーマなので、小学生だけでなく、例えばパワフルキッズとタイアップして、小さな子どもたちにもアピールするような取り上げ方をしてもらって情報発信を工夫していただけたら、より一層期待が高まるのではないかと思います。

【会長】ありがとうございます。他に何かありますか。

【会長】無いようでしたら、私から。先ほどの協議でも委員から指摘がありましたが、くれ

ぐれも新型コロナウイルスの感染者がここから出ないように、安全な運営を配慮いただき、開催していただきたいと思います。

【会 長】他に御意見・御質問がないようでしたら、令和2年度の事業計画についても、承認ということで終わらせていただきたいと思います。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、「令和2年7月期全天周映画上映作品の選定」について協議するため、会場の移動をお願いいたします。

本日上映していただくのは、『ハナビリウム～花火って、なんであるの？～』と『新・恐竜大進撃』の2本で、10分後に上映を予定しておりますので移動の方をお願いしたいと思います。

【事務局】事務局の方で御案内いたします。

(プラネタリウムに移動)

ープラネタリウムで全天周映画候補作品試写を鑑賞ー

(上映終了後、研修室に移動)

(5) 【協議1】令和2年7月期全天周映画上映作品の選定について (※予定の順番を変更)

【会 長】それでは皆さんお集まりですので、全天周映画の内容について事務局から御説明をお願いいたします。

【事務局】まずは長時間に渡りまして、2本の全天周映画の上映を御覧いただき、ありがとうございました。協議会要項の「資料5」の「全天周映画の作品選定のガイドライン」を御覧ください。

全天周映画については、年間3本、7月と11月と3月に新作を投入します。以前は協議会で配給業者を1社選定していただき、その業者と1年間の契約をまとめてしていましたが、プラネタリウムのリニューアル以降は、1作品ごとに選定をしていただき、それぞれ1年間のライセンス契約を結ぶこととなりました。

ページの下の方、3-4には、年3本上映する作品内容について望まれる、3つの資質について示しております。つまりは「科学解説の品質の高い作品」、「集客力が期待できる作品」、「低学年児童、幼児のニーズに応えられる作品」の3つの資質です。実際には資質が重複したり、どれにも当てはまらないような例も出てくるかと思いますが、例えば、いくら人気が高いからといって恐竜物の作品ばかり続く、というような偏った選定にしないためのガイドラインとなります。

次に、要項の4-1ページ、「令和2年度 全天周映画上映作品の選定について」を御覧ください。今回選定をお願いするのは、今年の7月から上映する、つまりは夏休み向けの作品です。候補となる2つの作品は要項の4-2ページの下側の表、科学センターの職員を対象とした試写の評価のランキングから選ばせていただきました。右寄りの星印の列は、職員の評価から分析して、作品がより子ども向け・ファミリー向けか、それとも大人向けの科学性

の高い作品かを示しています。星印が左ほど子ども向け、右ほど大人向けということです。ランキングの上位、太字で書かれているものが今回の候補作品です。要項の4—3ページの表は、近年の上映作品の一覧です。

どちらの作品が、より科学センターで上映するのに相応しいか、御協議願います。

【会 長】 それでは、委員の皆様にご協議いただきたいと思いますが、どなたか上映作品について、何か御意見や御質問、いかがでしょうか。

【委 員】 花火の方は、映像も内容も良かったと思います。

恐竜の方は、恐竜がけっこう動き回って、(動きの速さに目が付いていなくて)目のやり場に困るところがあったが、内容は良かったと思います。

トータルすると、花火の方が良かったです。

【会 長】 ありがとうございます。他に、いかがでしょうか。

【委 員】 花火の方は、本当に(実写の)花火が映ってるんでしょうが、CG っぽいような気がしました。

恐竜の方は、ドームスクリーンの大画面を活かした迫力ある映像だったと思います。

【会 長】 ありがとうございます。

一応、『ハナビリウム』の方は、資料を読むと実写の花火を使ってるようですね。音も録音にヤマハ(株)が入ったり、花火も(株)丸玉屋さんという花火屋さんが提供していたり、いろいろと新しい試みの作品ですね。

【事務局】 補足ですが、(株)丸玉屋さんは花火の提供というよりも、番組の企画・制作自体を行っていて、花火もドーム映像で映えるように、(安全管理のため関係者以外立ち入れない)打ち上げ場所から見上げた角度で撮影しているんですね。

【会 長】 面白いのは、25分しかないのに、あれだけたくさんエピソードをうまく入れ込んでいることですね。はい、他にいかがでしょうか。

【委 員】 『新・恐竜大進撃』の方は、迫力もすごくあって、新しい恐竜の知識もあって、すごいなと思いました。恐竜は人気もあって、集客力も高いのかな、とは思っています。

『ハナビリウム』の方は、新しい視点だな、ということを感じました。私は中学生の子どもがいるんですが、科学のこともあったり、勇気を持って挑むような物語性もあったり、また視覚的にも、例えば橋の下を通過するときの視点など、日常でなかなか経験できないような映像があったり、花火の歴史のこともあったり、いっぱい学べる要素があって、恐竜も好きなんですけど、ぜひ子どもに見せてやりたい、一緒に見たいな、と思う作品でした。

恐竜とは甲乙つけがたいところですが、花火は新しい感覚の作品だな、と思いました。

【会 長】 はい、ありがとうございます。他には、いかがでしょうか。

【委 員】 無難なのは恐竜の方かな、と思います。

子どもたちが(ポスターなどの宣材)見て、どっちに入りたいと思うのか、花火を見たいと思うのか、気になるところです。

もう一つ花火で気になるのは、時間が短い。(『新・恐竜大進撃』と比べて)10分も違う。通常の今まで上映してきた全天周映画に対して、短いということをどう考えているのか、事務局に聞いてみたいところです。新しいことにチャレンジしてみたい、多少集客が減ってもやってみたいということなら、良いのかな、という感想です。

あと、小学校の教員の感覚からすると、内容が絞られていない感じがします。最初、炎色

反応で化学の話で行くのかなあと思っていたら、歴史の話が出てきて、そこから自分に自信を持たないといけないんだよ、というような道徳的な話になって、どこに焦点を当てて見たら良いのかな、という感じはしました。

【会 長】はい、ありがとうございます。

事務局への質問があったので、作品が短いことについて説明をお願いします。

【事務局】科学センターで既に試写を何本か見っていますが、確かに大体の作品が35分くらいです。

しかし、前回選定していただいた『えんとつ町のプペル』もおおよそ25分くらいの短い作品でしたし、オリジナリティが高く、しっかり内容を作りこまれた作品の場合、25分程度でもこうして候補に挙げさせていただく場合があります。

実際、どちらの作品が選ばれても十分期待に応えられるクオリティがあると評価していますので、時間が短いこと自体は気にしていません。

【会 長】ありがとうございます。

私からも小学生のことをお尋ねしてみたいんですが、恐竜の捕食シーンで、ティラノサウルスが大きな口を開けてトリケラトプスを食べるような映像がありましたが、そういうのは子どもたちは大丈夫なんでしょうか。

【委 員】おそらく大丈夫だと思うんですが…昆虫の場合は嫌がる子たちもいるんですが、恐竜の場合だと、そういうもんだと認識しているように思います。

それよりも気になるのが、内容的に、「花火って、なんであるの?」というキャプションから、子どもたちが見ようと思って入ったとき、果たして子どもたちが期待した内容になっているのかどうか、そこが気になるんです。

恐竜は、おそらく内容的に子どもたちが期待したものと、大きく違うことはないと思います。そういう意味で無難です。

花火の方は、もしかしたら期待したものと内容が違うと感じるかもしれない。その時に覚える失望感は、期待した分、大きくなってしまうおそれがある。そこは考えておいた方がいいのかな。

でも、せっかく全天周映画（投映装置）が新しくなったんだから、たとえ1年くらい集客が減っても目をつむって、科学センターとして新しいことにチャレンジするというのなら、それも良いのかな、というように、私も迷っています。

【委 員】私も甲乙つけがたいと迷っているんですが。

花火の方は、既に何人かおっしゃられたように全天周映画向けの、新しい視点の映像だなと思わせられるんです。

しかし、私も生き物好きなので恐竜の方が気になるんですが、こちらはNHKの『ダーウィンが来た!』などで何度も見ているような既視感のある映像で、大人が見る分には物足りなさを覚えるかな、と思います。

今上映している『HORIZON』などは、小中学生はあまり見ないのかもしれませんが、大学の先生方などから「見応えがあった」というような評価を聞くと、選定に関わった者としてうれしく思いますし、そうした違う視点の作品が混じるのは良いのかな、と思うところです。

それと、前回の夏も『ティラノサウルス』を上映していて、科学センターの夏番組は「恐

竜」というイメージが付きすぎるのも気になるので、一度そうしたイメージをリセットするという意味で恐竜以外の作品を上映しても良いのかな、とも思います。

もし、恐竜を選ぶのなら、どこかの施設の恐竜の展示などとコラボをして相乗効果で集客を増やすとか、印象が良くなるようなセットができれば良いな、と思ったりして、いろいろ決めかねています。

【会 長】どうやって投票するか、難しいですね。持ち点制で点数を多く取った作品にするとかしないと、決められないですかね。

【副会長】先ほどのコラボの話ですが、今回の企画展は忍者をテーマにしたもので、『日本＝和』という意味では花火の方がコラボできる要素があるのかな、と思います。

それから先ほども（実績報告のところで）SNS の話をしましたが、（お客様が）入るかどうかは広報の仕方だと思うんですね。内容を見てみれば面白いと思うので、どうやって良さをアピールするか。

全天周映画との相性も良く、あんな角度（真下）からの花火はなかなか見られないので、見終わった後、本当の花火を見に行くと、「あれ、この間（ハナビリウムの中で）言っていた『ボタン』だよ」とか『キク』だよ」というような会話が親子でできたら良いな、と思いました。

【会 長】ありがとうございます。みなさん、それぞれ悩まれていると思いますが、時間も限られております。いずれの作品も良い作品だということは、みなさんの御意見でよく分かったと思いますので、そろそろまとめたいと思います。

まず、『ハナビリウム』の方に賛成される方、挙手をお願いいたします。

（5名挙手）

【会 長】ありがとうございます。それでは5人が賛成ですので、「令和2年7月期全天周映画上映作品」については、『ハナビリウム～花火って、なんであるの？～』を選定と結論付けたいと思います。

【全員異議なし】

【会 長】それでは、以上で協議・報告事項をすべて終了ということで、最後に諮問についての確認です。

先ほどまでの協議結果を踏まえ、「令和2年度夏休み企画展」については『科学ニンジャ学校』～忍者で遊ぶ科学～（仮称）を、「令和2年7月期全天周映画上映作品」については『ハナビリウム～花火って、なんであるの？～』をそれぞれ当協議会として選定・推薦するという内容で答申書を作成させていただきます。よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会 長】ありがとうございました。それでは、すべての協議・報告事項が終了しましたので、事務局に進行をお返しいたします。

4 閉会

【事務局】長時間に渡り、熱心な御審議をいただき、誠にありがとうございました。

一点だけ事務連絡ですが、年度が変わりましたら、4月以降で充て職の委員の方で、市PTA 連合会代表の方、幼稚園園長会代表の方、小学校校長会代表の方、中学校校長会代表の方、市教育委員会事務局代表の方については、交代となる場合がございますので、よろしくお願 しいたします。

以上で、令和元年度第2回倉敷科学センター協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

令和2年3月31日

会 長 富岡 直人



議事録署名人 中原 貴子



議事録署名人 高木 盛雄

